

第3回県庁周辺県有地等の有効活用に関する検討会 主な意見

日時：令和8年2月20日（金） 13：30～14：40

場所：県庁4階大会議室

（主な意見）

齋藤委員

- ・ 冬季の気候を考慮すると、全天候型の施設が望ましい。また、ヨーロッパの庁舎付近の広場では、店舗が並び、子どもからお年寄りまで多くの人が集まり、賑やかな雰囲気が生まれている。県庁周辺に広場を整備することで、市民が集い、ひとときを楽しむ場となることが期待される。

品川委員

- ・ これまでの検討やパブリックコメントでは多くの意見が寄せられたが、本資料にはそれらが的確に集約されている。具体的な検討を進める際に考慮すべき事項も網羅的に盛り込まれており、今後は県庁周辺の将来像をどのように実現していくかが重要となる。
- ・ 今後は多様な主体の参加を得て、欧米の主要都市に見られるような、市民や観光客が集う象徴的な広場や博物館のような場所を目指し、県庁周辺エリアが県民・市民・観光客にとって集いたくなるシンボリックな空間となるよう、最終的な空間デザインを具体的に定めてほしい。
- ・ 世界に誇る産業技術や、食文化、民芸・伝統文化などのコンテンツを発信し、県民・市民の誇りを象徴的に表現しつつ、多くの人が憩える場となることが望ましい。
- ・ 駅前と中心市街地、富山市中心街の魅力あるエリアの結節点となり、中心的な場所になることを期待する。

園田委員

- ・ 意見収集においてパブリックコメントと Polipoli によるオンライン公聴が実施されたプロセスが特徴的。パブリックコメントでは50代男性の意見が多かった一方、オンライン公聴では20代が最も多く、男女比も半々であった。新しい技術の導入により、若い世代や女性の意見が反映されたものと考えられる。
- ・ 概要版については、エリアコンセプトとアクションプランの間に「どのような人たちがどのように過ごすのか」というまとめを、本編と同様に差し込んでほしい。エリア

コンセプトが実現された場合に誰がどのように県庁周辺エリアで過ごせるのかを示すことで、一般の方にも理解しやすくなる。

- ・ 概要版 7 ページの「まちなかにおける緑のスペースを創出する」アクションについては、広大な敷地内には様々な施設が存在するため、空間全体としてはランドスケープ計画が最も重要である。全体を俯瞰し、ランドスケープとしてのあり方や、駐車場や LRT や自転車、徒歩も含めたアクセスがどう整合するかも重視すべきであり、今後この部分の具体的な検討を期待したい。
- ・ 概要版 11 ページのアクションプラン実行に向けた仕組みについては、本来は県有地であるため公共投資が中心となるが、同程度の民間投資が並行して追い付いてくることが重要である。最終的な都市経営として投資分を回収する上で、公共投資だけではなく、民間投資の喚起が必要となる。
- ・ この場所の魅力が高まり、警察・県庁を含め昼間人口として働いている方が沢山いる場でもあるため、そういった方に働き方もフレキシブルにさせていただき、出来るだけ昼休みは外や周辺に出て時間やお金を使っていただくことで、周辺の飲食・物販などの空き店舗が埋まってきて、休日に新しい店舗やサービスが生まれるという効果に期待したい。そのシナジーをいかに設計できるかが非常に大事である。
- ・ 来年度以降アクションプランで是非色々な方に注力いただき県・市が動いていただくと理想に近づけるのではないか。

難波委員

- ・ 本資料は多様な情報を丁寧にまとめており、読み応えのある内容となっている。
- ・ オンライン公聴やパブリックコメントを含め、200 件以上のコメントが寄せられ、アイデアコンペも行われたことから、関心の高さがうかがえる。高い関心をいかに今後の活動へつなげるかが重要である。
- ・ 「ありたい姿」の部分で、「つながる」という言葉がキーワードになるのではないか。「まちにつながりと一体感を醸成する」は実際のアクションとしては弱い。駅と地域とのつながりには、ウォークアブル・歩行者動線などの固いハード面だけでなくソフト面も含まれるが、埋もれている印象がある。
- ・ 「自分らしい過ごし方」は、ややそれぞれでバラけている印象である。また、目的のない人を呼び止めるという要素が薄いと感じる。特に小中高生が何となく時間を過ごしていたら、こんな素敵な生活が将来できる、そこで働けるように思えるような場所になってほしい。
- ・ 全体的に地域とのつながりや営みに関する視点を持ち、エリアマネジメントにも反映できるとよい。全天候型のスペースは良い。地域の人々はどのような過ごし方をしたいか、どのような機能を求めているか、また安定的な運営のためにはどのような仕組みが必要か、今後具体化できるとよい。

- ・ エリアマネジメントの安定化のためには富山大学の学生等の協力が必要だが、特定の人々以外が立ち寄りづらい場所とならないよう、マネジメントの安定化と来街者の多様化のバランスを取るべきである。
- ・ 「今後に向けて」の県庁舎に関する今後のアクションは、真面目な印象であるが、セキュリティに配慮しながら会議室を休日一般開放する、などの取組みが、小さなチャレンジとして最適な記載ではないか。

牧田委員

- ・ 昨年度作成したエリアコンセプトブックをもとに様々な方から意見を聞いた結果、基本構想の内容が大きく膨らんでいるが、逆に内容がぼやけてしまった印象もある。今後は具体の構想へ移行するための準備が必要である。
- ・ ウォークアブルがポイントとなる。富山駅から、飲食店街を抜けて、県庁前公園に入り、県庁を経て、松川を渡り、全日空ホテルの横を通り総曲輪の脇に出るまでの軸は重要であり、まずこの軸を整備することが最優先であると考え。この軸を歩行者専用とすれば、明治以降の鉄道駅周辺のまちづくりと同じく、歩行者空間が核となり、必要な商業空間のあり方も明らかになるだろう。一度に全体を整備するのではなく、一本の軸を定めて着実に整備していくのが良い。
- ・ 富山城に絡め富山市との連携も必要となる。商店街や飲食店街においても、地域の協力を得て、富山駅から県庁に至る軸線上は歩行者空間化できると望ましい。本館1、2階を歩行者が通れるように開放することをまず決めるべきである。そのあとに3、4階の活用を検討すればよい。庁舎の開放の検討が一丁目一番地であり、ここを固めなければ何も進まない。

水田委員

- ・ エリアコンセプトブックと基本構想において、留意点は概ね網羅できたという点では意義があったと考える。
- ・ 富山駅から中心商店街地区まで約700mあり、歩行者の中継地として県庁エリアは重要である。桜木町再開発も進行中であり、富山駅周辺や中心商店街地区の方々にとっても待望のプロジェクトとなるため、一日も早い実現を望む。
- ・ 観光の視点から見ると、富山市内では環水公園とガラス美術館の他に行く場所が少ないため、3つ目の滞在場所となることが期待される。レガシーである歴史ある県庁舎を活かしつつ、県庁舎でありながらこれだけ開放的に使っているのか、と珍しく感じられるような空間として注目されることが望ましい。
- ・ 周辺との接続性は重要である。県庁周辺には飲食店街の魅力もあるが、県庁前公園に入ってくる際の公園の姿があまりにも良くない。デザインを含め、細部にわたる接続性への配慮によって、その後の周辺投資の活性化につなげることが肝要である。

- ・ エリアマネジメントについては、多様な主体の参画も重要であるが、事務局を誰が担うかが特に重要である。早い段階から取りまとめ役を意識するとともに、周辺の組織との関係性を整理する必要がある。

秋田委員

- ・ 本構想に記載がない重要な点の一つに、富山駅から県庁前公園までの直線ルートが挙げられる。課題が改善されれば印象が大きく変わる。
- ・ パブリックコメントが冬季に実施されたことも影響している可能性があるが、滞在交流の全天候型スペースに関して、「雨・雪」と記載があるが、夏についても気候変動で長期化・高温化しており、夏場を考慮した全天候型や日陰となる空間づくりは極めて重要である。年間を通じた全天候型空間の検討が必要である。
- ・ 「環境・景観」については、パブリックコメントにも「暗い」「目立たない」という意見が多く寄せられているが、これは植栽の影響というよりも、県庁舎の入り口が北側を向いていて、県庁自体がつくる影が近寄りやすい雰囲気を生んでいる点と感ずる。設計時の意匠で「光と影のコントラスト」を重視したこともあり、今後、どのようにして開かれた明るい雰囲気を出すかが重要となる。花や緑は有効であるが、日影にどのように対応するかが課題である。
- ・ 2011年の東日本大震災後、東北の被災地に花を植える活動に取り組んだ際、まだ被災から間もない2011年冬に最初に花を寄付頂いたのが富山のチューリップ生産者であったという経験がある。富山産のチューリップは象徴的であり、地域住民と一緒に植えるなどして、県庁の入口を温かく人を迎える空間にできないかと考える。
- ・ 4ページに示されたプレイヤーの区分については、特に3番目の「居住者」という括りについて、多様な居住者がいることを十分配慮してほしい。さまざまな事情を抱える方々も安心して来訪できる空間となるよう、検討を求めたい。

西村座長

- ・ 車道である城址大通りと並行する歩行者動線の整備が富山では重要であるが、県有地だけでは実現せず、電停周辺や再開発地区などの計画を市と県がいかにかにうまく調整し、南北軸を変化させるかが課題となる。市と県の良い関係性のもと実施すべきである。公園の設計、歩行者専用出入口の追加、CiC内の動線の通過、松川の歩行者用の橋の架け方、城址公園の計画など、双方がうまく連携できれば理想的である。
- ・ 戦前の県庁が現役で使われている場所は日本でも珍しく、戦災を経て残っている点も重要である。もともと北側と南側の双方に正面があり、南側にも正面を向けていたが、現在は南別館の立地により何も見えなくなっている。防災危機管理センターと対になるようにツインタワーを整備して、中央を空けて階段を通すことで、松川と城址

公園を見渡せて、将来的に橋が架かるというような大きなビジョンにつながる。階段を上った本館2階の内部は、動線としてパブリックスペースとするべきである。

- ・ 歴史的に重要な軸は県庁と県民会館の間、公園とNHK跡地の間の道である。その先は元々塩倉橋のあった場所であり、防災危機管理センターの前と繋がっている。この道はアップダウンがなく、県庁を通る場合に生じる階段の上り下りを回避できるため、歩行者軸として有力であり、城の石垣にも正対できて、歴史的意義もある。市と調整しつつ大枠を早期に決めるべきである。
- ・ 現在の構想だけでは使い方のイメージとしてまだ漠然としている。議論が進みやすくなるようなベーシックな合意を形成し、市側も次の段階を考えやすいよう、具体的な手掛かりを作してほしい。

齋藤委員

- ・ 皆さまの意見のように富山駅から県庁周辺エリアに向かう中心の歩行者動線を決めてほしい。
- ・ 富山大学ではオランダからの留学生からの提案でチューリップの球根を植え、以降毎年球根を植えている。市民全員で楽しめるイベントとして季節ごとに花を植えるとシビックプライドの醸成につながると期待している。

難波委員

- ・ ポルトガルで訪れた都市で、旧市街地と観光地の要塞の間に漁港があり、網などが放置され景観としては雑然としているが、見た目の統一感を出すような倉庫を整備し、漁師が獲った魚をその場で購入してBBQを楽しめる場所があった。県庁周辺エリアにおいても、デザインや活動の工夫により、仮に車を駐車しても皆が損しない、歩いて楽しめるようなポジティブな機能を検討すべきである。
- ・ 飛行機から北アルプスがきれいに見えたのが印象的であった。市役所は展望台から山々を望めるため観光客で賑わっており、今後さらに多くの人に知ってもらえると良い。

園田委員

- ・ 計画を進めていくことが重要であり、実現してこそ構想や計画に意味が生まれる。アクションプランの実行段階に移る際には、KPIを設定し、何をもって成功とするか、どのような波及効果が得られたかを次年度以降の始動前に検証すべきである。都市整備系のハード面の変化は分かりやすいが、経済効果や産業・商業系の事業意義についても検証できるとよい。
- ・ 周辺への波及については、駅前からの軸線上や周囲の低未利用地の状況も重要である。現状のBeforeのデータを整理しておき、未利用地での新築や居室率の向上、北

側ビル店舗の稼働などを事業成果として、議会や県民へ定量的に説明できると望ましい。

事務局

- ・ 資料3に「今後に向けて」という項目を追加した。エリアコンセプトから説明を進めたことで、参加者間で共通の動機や理想像が共有できていると感じる。今後はこれをどのように進めていくかが課題であり、様々な意見を踏まえながら県庁舎の方向性を早々に固めるべきと考え、「県庁舎について」を冒頭に記載した。
- ・ 「魅力的な空間づくりについて」では、難波委員からも指摘があったように、周辺とのつながりが重要であると考えている。どのようにつながるかは一概に言い切れないが、学生、企業、市役所などと連携し、つながりのある空間づくりを目指したい。
- ・ エリアマネジメントに関しては、園田委員・水田委員の意見のとおり、行政主導と言っても我々だけで決められるものではない。秋田委員、西村座長からの指摘の通り、些細なことでも変化が生じ、多様なアクションが想定される。全ての関係者が実行者となり、共に作り上げていくエリアマネジメントを目指して、いただいた意見やアイデアを着実に実行し、次の一步を踏み出していきたい。

西村座長

- ・ 基本構想そのものに関して異論・コメントはないと判断してよろしいか。
 - (異論なし)
- ・ 今後に関して課題もあるが、戦災以降、富山のまちに大きな変化が起きることは初めてのことであり、重要な機会であると県民に伝えながら、進めてほしい。